

2021 年度 1 学期始業式の校長メッセージ

爛漫と咲き誇っていた桜も蕊降る時節を迎え、早くも葉桜です。今年の春は暖かく、樹々の新芽の成長が著しくて、連翹の黄色い花の鮮やかさより、早くも新緑が眼に眩しく感じられます。美しい季節の宴の中、皆さん、御入学・御進級、おめでとうございます。あつという間の短い春休みを経て、心機一転、新学年度を迎えられたことと思います。

教会では、4 日に復活祭を迎え、主イエス・キリストの復活を称え、盛大に祝っています。2 月の聖書朝礼で「灰の水曜日」に就いてお話したことを覚えていらっしゃるでしょうか。復活祭の前には、「灰の水曜日」から始まる約 40 日間の四旬節という期間があります。40 日という日数は、イエスが宣教活動を始める前、荒れ野で 40 日間の祈りと断食の日々を過ごされたことによっており、四旬節はイエスの復活への準備期間であるのです。復活祭は、神の御業によっていのちが蘇る喜びと希望の日であり、イエスの復活は、キリスト教の信仰の中心です。イエスが死んで、復活したからこそ、私たちは神に愛され、大切にされ、豊かな恵みで満たされていると信じることができます。イエスが十字架上で亡くなる時、空は暗くなり地は揺れ動きました。聖書の中でイエスの十字架は、宇宙的な出来事として描かれ、キリストの受難を通して神の愛と救い、そして希望へと集約されてゆくのです。復活祭を迎えた今、神様に信頼して新学期の歩みを安心と安堵の気持ちで始めましょう。

2020 年度は、コロナ禍により日常が非日常になり、社会生活に大転換〈パラダイムチェンジ〉が起こり、「ニューノーマル」が日々の当たり前になりました。学びの場においても、学校の本領である「face to face」の対面が叶わず、中高等科でも夏に BYOD 回線を校内に敷設し、第三波の時期には、教室にライブカメラ代わりのタブレットを設置してのオンライン授業の配信等、「未来が早くやって来た！」を実感する状況が続きました。中 2 以上の皆さんは、オンライン授業にどのように取り組まれたでしょうか。対面のリアル授業は勿論、オンライン授業こそ、主体的な我がこととしての学びの姿勢が不可欠です。動画や授業を受動的に視聴することだけに満足しては、真の実力の伸長には繋がりません。自分で課題・問題点を発見して自分なりの解決法を模索しつつ「探究」するプロセスが大切です。

新入試が話題となった 2021 年度の大学入試では、世の中の急速な変化や不測の事態に対応する力を測る「思考力・判断力」を重視する出題が「大学入学共通テスト」でも増えました。近年は、ガルブレイスの指摘した「不確実性の時代」より、自然災害・国際情勢等、更に不確かな時代になり、2020 年以來の新型コロナウイルス感染症パンデミックにより、先行きは益々不透明になっています。正解が無い中、自分自身で判断する機会は一層増え、更に今迄の常識を超える新しい発想が不可欠な現代において、知識の習得に加え、得た情報や知識を教養に昇華させて、考える基盤を堅固にすることで、ブレイクスルー的な問題解決

への道が開かれるはずです。確固たる基礎基盤の構築のためには、教養の習得が不可欠です。教養は、すぐには役立つように感じられるかもしれませんが、生きる上での道筋であり、判断する際の基準や物事を繋げて考えるためのヒントになります。不測の時代を生き抜くための導きとなる力です。

盤石な基盤の習得のために、光塩では様々なプログラムを準備しています。中 1 の皆さんはこれから体験してゆくこととなりますが、日常的な学びの宝庫である授業、英語・国語の土曜テストや数学の計算テストによる基礎の習得、国語科の多読プログラム「IEP」、社会科の新聞ノート、文理横断科目である高 2 の教養演習、理科科の「CCA」「ものづくりコンテスト」、数学科の「MCA」、英語科のイングリッシュキャンプ、高大接続プログラムをはじめ、各種特別講座等、光塩での様々なチャンスを楽しく活用してください。チャレンジ精神が物を言います！

そして、変化の激しい時代だからこそ、「光と塩」の揺るぎない価値観が生きる指針を与えてくれると確信しています。光塩は、スペイン北部の小さな村ベリスにある「ベリス・メルセス宣教修道女会」が創立したミッションスクールで、「地の塩、世の光（マタイによる福音第 5 章 13 ～ 16 節）」を建学の精神にしています。「あなた方は地の塩である。あなた方は世の光である」という聖書の言葉は、「地の塩になりなさい。世の光になりなさい」という努力目標を謳うものではなく、私たち一人ひとは、存在そのものとして「地の塩、世の光」であるという、自己肯定感を支える力強い真実のメッセージを含んでいるのです。燭台の蝋燭は身を溶かしながら光を放ち、塩は自ら溶けて味をつけたり防腐剤になったりします。ここから人のために生きることを喜びとする生き方が導かれました。創立者マドレ・マルガリタの「日本の学校を実現させるためならば、ベリスの修道院全員は、水とパンだけで長い間生きる犠牲をいとわないことを信じてください（1930年）」という言葉も残されていますが、この生き方は、決して自己犠牲ではありません。自分が精一杯がんばって身につけた成果や習得した技術・専門知識をもとに自分の専門性や実力を発揮して、他者のために生きることを意味しているのです。

今年度も、昨年度に引き続き、他者・自己を「歓待」する姿勢「ホスピタリティ」を大切にしたいと思います。

・朝、眠くても、寝起きが悪くても「おはようございます！」日中、校内ですれ違ったら、急いでいても「ごきげんよう！」

・授業中、集中力が途切れたり、おしゃべりしたりしそうになったら、自分に「喝！」一つ一つの行為に「心を込める」ことで、「光と塩」の精神―「人のために生きることを喜びとする」―を学院生活の中で育んでいきたいと願っています。

サブテーマは、今年も「塩 SALT」に着目し、「世界・環境」に就いて思考を深め、「自己

と学び」に対峙するためのヒントとして「SALT」のS・A・L・Tを頭文字に持つ次の言葉をキーワードにします。

Sustainability（持続可能性 — 環境問題）

教皇フランシスコは、地球を「私たちの家」と表現されています。私たちには、地球という「共通の家」を守り、次世代に繋ぐ義務があります。気候危機をはじめとする環境問題に取り組む上で、持続可能性という視点は重要です。

Ambition（大志 — 夢の実現）

自分の夢と連動させて歩みを進め、次世代に地球環境を繋ぐことを含め、まず、社会で自分ができることは何かを中・高時代に模索することが不可欠です。

Lux Veritatis（真理の光 — 学問探究）

真理を求めての学問探究を通して、セレンディピティを身につけて幸せを引き寄せてください。

Tolerance（寛容 — 多様性）

多様性を尊重し、他者に対して認識的な思いやり〈想像力〉を働かせることが大切です。目の前にいる友達は勿論、同じ地球に暮らすまだ出逢っていない「もう一人の友」の存在に折に触れて思いを馳せ、加えて、自己の中にある「多様性（葛藤）」にも〈寛容〉な態度で臨み、自己内対話、即ち自分との語り合いも忘れずに実践してほしいと願っています。

今年度、特に着眼したいのが、「SALT」の最後のキーワード「Tolerance」です。私たちは、自然、多文化、災害、AIをはじめとする科学技術、そして新型コロナウイルス等、様々な多様な存在と共生しつつ人生の歩みを進めています。「地球という共通の家」で生物多様性の中で生きる私たちは、未来への希望の光を導くために、人間の枠を超えた多くの「他者」と共生しているという感覚〈センス〉を養うことが喫緊の課題です。

そして、既に、世界には一縷の曙光が射し始めています。

3月初旬、教皇フランシスコが歴代教皇で初めてイラクを訪問してイラクのシーア派最高権威シスターニ師と対面し、また、アブラハム誕生の地ウルでの集会で「テロリズムが侵略する暗い時代でも、空を見上げれば星は輝き続けている。お互いを求め、受け入れることで、ともに平和への道を歩もう」と呼びかけ、紛争や難民問題に関して対話への端緒を開かれました。

また、1月に発せられた若い世代の力強いメッセージも心に響きました。バイデンアメリカ大統領の就任式でアマンダ・ゴーマンさんが朗読した詩「The Hill We Climb」には、真実と信仰への信頼によって、分断ではなく橋を望む勇気が漲り、新しい夜明けを互いに手を差し伸べながら迎えようとする希望の光が満ちており、励まされました。

皆さんも、この一年、「SALT」をヒントに御自分の課題を定め、具体的に「探究」のアク

ションを起こしてみてください。2030 年を期して、2015 年 9 月に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs = Sustainable Development Goals)」の「17 の目標、169 のターゲット、232 の指標」と繋げて深めていく方法もあるでしょうし、「学年進行の目標」と連動させることも可能です。キーワードや目標を、単なるお題目にしてしまうのではなく、実践に移すように心掛けることが肝要です。眼の前の個人的な課題と思っていたことが、期せずして普遍的な問題に繋がったり、A か B かの二元論的思考から脱却して第三の道に通じるダイナミックな根本的な解決策に導かれたりするチャンスに恵まれるかもしれません。まず、「やってみなはれ！」です。

念のため、「学年進行の目標」を記します。

中 1 自分との出会い

—自分をよく知り自分の生き方を考える

中 2 自分と他者との関わり

—自分と他者との関わりを広げ、コミュニケーション能力を育てる

中 3 社会の中での自分

—社会の問題を認識し、自分に問われていることが何かに気づく

高 1 神が創られた自然の中での自己発見

—神が創られた自然の偉大さを理解し、その中に生まれて自己認識を深める

高 2 社会の中での自己発見

—社会に生まれていることを感謝し、自分の責任を自覚する

高 3 Women for Others

—他者のために生きることを喜びとし自分の将来の姿を思い描く

御自分の学年の目標だけでなく、6 年間を通してのトータルなイメージと共に具体的なビジョンが浮かびましたか。

光塩女子学院創立 90 年の 2021 年の日々、学年進行の目標の達成に向けて、倫理の授業は勿論、各教科をはじめ総合的学習の場など様々な場面、そして御自身で発掘された課題「探究」の機会を活用してアクティブでハッピーな学院生活を過ごされますように！

そして、来週末には、「Diamond」をテーマとする光塩祭が開催されます。今回は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、一般公開を見送り、保護者の方を中心に皆さんの活躍を御覧戴く予定です。光塩祭までの 10 日間、感染対策を講じながら、準備の時間を納得ゆくまで満喫されるようお祈りしています。

2021 年新年度劈頭（へきとう）に際し、今日も 1 日、ファイト！です。喝！